

歴史

我が国の歴史の背景となる 世界の歴史の授業展開 — 古代国家の成立と東アジアを例に —

岡山県公立中学校教諭

1 はじめに

学習指導要領（平成29年告示）では、歴史的分野における内容の改善と充実の一つとして、「我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実」（解説）が図られることとなった。これは、従来の我が国の歴史的事象に直接かわる事象だけでなく、間接的な影響を与えた世界の歴史的事象を学習内容として扱い、日本の歴史的事象に対する生徒の理解を促そうとするものである。以前より、世界の歴史は教科書でも扱われていたが、グローバル化の進展など社会の変化を踏まえて、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性が増しており、世界の歴史の一層の充実が目指されている。そこで、本稿では、時代区分でいう原始・古代のうち、世界の歴史に焦点を当て、我が国の歴史をより理解させるための授業展開を示したい。

2 単元開発の視点

(1) 歴史授業の導入と捉えさせたい歴史的な見方や考え方

本授業は、中学校の歴史的分野の学習の導入としての生徒の興味・関心を高めるとともに、世界の歴史を通して、歴史的な見方や考え方を捉えさせることをねらいとしている。我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実を図る授業は、元寇をユーラシアの変化の中で捉える学習やムスリム商人などの役割と世界の結び付きに気付かせる学習などが想定される

が、今回、原始・古代を単元を選択した。指導者の多くは、小中の接続を意識するとともに、中学校の歴史学習への興味・関心を高めようとする様々な工夫を重ねていることだろう。ただ、生徒の興味・関心を高めようとするあまり、ややもすればその当時の歴史的な特色を明らかにするような内容まで踏み込まずに、断片的な内容に終始しかねないこともあったのではないか。「世界の歴史の扱いの一層の充実」は、世界の歴史に詳しくなることではなく、世界の歴史を通して、歴史的な見方や考え方を身に付けることにある。よって、今後、生徒が日本の歴史をより理解するために、中学校の歴史で最初に学ぶ本単元で身に付けておきたい歴史的な見方や考え方を明らかにしていきたい。

(2) 歴史的な見方や考え方と発問の工夫

本授業では、1単位時間で捉えさせたい歴史的な見方や考え方を設定し、実践に取り組んだ。ここで、**歴史的な見方や考え方とは、歴史的な事象の中で、複数の事象に見られる共通の要素、あるいは関係、傾向性について説明できる視点や方法のことを指す。**例えば、本授業では「大河の流域に文明が発生した」ことを捉えさせようとしているのだが、この視点は、国家や都市の成立における共通の要素を含んでおり、他の事象をも説明できる汎用性の高いものである。ただ、歴史の場合、その視点や方法はある一定の期間（数世紀）は説明できたとしても、時代が変われば説明できないこともある点に留意しておく必要がある。

また、このような視点や方法を働かせるための問いは、「なぜ」である。生徒は、「なぜ」と

問われれば、自身の生活体験や既習事項、あるいは資料を踏まえて、推論し、根拠を挙げて答えていく。そして、それが妥当なものか、または、批判的に吟味されるものか、いずれかの過程を経て、その時代を説明する知識や概念を習得していくのである。そこで本授業では、**問いに対する答えを導こうとする中で、時代の特徴をつかませるような問い**を心がけた。ただ、すべての授業において歴史授業の導入段階で設定するのは難しく、適宜、「何」という問いかけもしながら、授業構成を行った。また、評価については問いに対して、資料などを参考にしながら、論理的に筋道を立てて、自分の言葉で説明できたかどうかを評価する。

(1)(2)の視点を踏まえて、作成したのが次の指導計画である。

3 単元の指導計画

(1) 単元目標

人類の出現から文明のおこりについて、その過程や共通する特徴を、資料から読み取るとともに、その流れや特徴を理解できる。

(2) 単元計画

時限	1 単位時間の授業の問い	1 単位時間で捉えさせたい知識・概念
第 1 時	サルと人の違いは何だろう。	人類は厳しい自然環境を生き抜く中で言語や道具を使い進化してきた。
第 2 時	なぜ大河の流域で文明が生まれたのだろう。	文明は農耕に適した環境を求めた過程で大河流域に生まれ、多くの人口が定住することで都市や国家がつけられた。
第 3 時	なぜ始皇帝は万里の長城をつくったのだろう。	秦は北方の異民族の侵入を防ぎ、領土を守るため、万里の長城をつくった。
第 4 時	他の文明では王による支配だったのに、なぜギリシャやローマではみんなが政治をする仕組みができたのだろう。	ギリシャでは、成人男子の市民が自国を防衛したことから参政権が与えられ、民主政治が生まれた。

4 単元の授業展開

(1) 第 1 時

本時では、進化と旧石器時代及び新石器時代の違いを捉えさせたい。

まず、『社会科 中学生の歴史』(以下、教科書) p.12 人類の進化(図 1)を示し、生徒に「**これは、猿なのか人なのか**」と問う。生徒は、思い

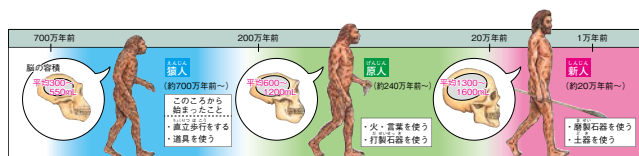


図 1 『社会科 中学生の歴史』 p.12 「①人類の進化」

おもいに「さるー」「人やろー」と答えていく。なぜそう思ったのかと問うと「全身毛が生えているからサル」、「顎がでていて、顔がサルっぽいから」、「二本の足で歩いているから人間」と資料を読み取り答えていく。さらに、猿人と原人、新人とあるが、どれが猿でどれが人なのかと問う。数人の生徒は、やや混乱してくるが、ここでどれも人だと定義されることを伝える。その後、猿と人の違いを整理しながら、人類が厳しい自然環境を生き抜くために言語や道具を発達させ、進化していったことを捉えさせる。このことが、日本語をはじめとする言語や様々な道具を使い生活を豊かにしていったことの理解につながっていく。

また、「**現在は、お金を出せばコンビニやスーパーですぐ食べ物が手に入る時代だが、当時の人類は生きていくために何を食べていたのだろう**」と問う。生徒はテレビの視聴や教科書の記述からナウマン象などの大型動物などを狩って、食料を得ていたと答える。では、「**その狩りは、いつも成功していたかな**」と問うと、「それは無理だから、生えている草を食べた」、「魚を取った」、「バナナみたいな果物を取って食べた」などの答えが返ってくる。そのような中で、打製石器を使い、狩りや採集を行っていた時代を旧

石器時代ということを抑えさせる。さらに、「今はナウマン象など大型動物はいるのか」と問う中で、寒い気候に適した大型動物が減っていったことから、野生の小動物を飼い慣らす牧畜や植物を栽培する農耕が行われた新石器時代になったことを抑えさせる。このことが日本における旧石器時代と新石器時代、縄文時代と弥生時代の違いの理解につながっていくのである。

(2) 第2時

本時では文明の発生について、その特色を抑えさせたい。

まず、ピラミッドやモヘンジョ=ダロなどの資料を示し、それらの建造物が教科書p.14~15「⑤世界各地の文明」(図2)のどこにあるか確認させていく。



図2 『社会科 中学生の歴史』 p.14~15 「⑤世界各地の文明と栽培植物の伝わった方向」

その後、文明が発生した地域の近くに何かがあるか読み取らせ、「なぜ大河の流域で文明が発生したのだろう」と問う。生徒は、「生きていくための飲み水が必要だから」や、前時の内容を踏まえて「農耕にはたくさんの水が必要だから」などと答えていく。その中で、文明は農耕に適した環境を求める過程で大河流域に生まれ、多くの人口が定住することで都市や国家が作られたことを抑えさせていく。また、ライバル(rival)の語源(=同じ川を巡って争う人々)が川(river)にあること触れ、旧石器時代のように皆が協力して生活していた時代から、より農耕に適した土地を持つ者や武力で農耕に適した土地をより多く支配したものが力を持つ時代になったことも抑えさせる。このことが他の国家や都市の成立の理解につながっていくのである。

さらに、4つの文明の特色を整理したのち、「4つの文明の共通点は何だろう」と問い、文字が生まれたことを確認させる。そして、税を記録をしたり、命令を伝えたりするために文字が生まれたことを抑えさせる。このことが、日本語をはじめとした文字の発生・使用に対する理解につながっていく。

(3) 第3時

本時では、秦や漢を例に国家の仕組みを抑えさせたい。

まず、教科書p.16「②万里の長城」を示す。その後、p.17「⑤紀元前後の東アジア」(図3)の中に記された万里の長城をマーカーでなぞらせる。そして、その長さを意識させながら、日本列島に重ねさせる。生徒は、「長すぎる」「すごいな」と万里の長城が北は北海道、南は鹿児島県をも越える長さに驚きを隠せない。そこで「なぜこれほどまでに長い城壁をつくったのだろう」と問い、北方の遊牧民族の侵入を防ぐためにつくったことを抑えさせる。このことが弥生時代の濠など為政者が自国の領地を守るために物理的な制限を加えたことへの理解につながっていく。

また、教科書p.16人物コラム「孔子」を示し、思いやりの心に基づく国づくりを主張し現在でも大きな影響をもつ儒教だが、秦の時代には儒教の本が徹底的に焼かれたことを抑えさせる。その上で、儒教よりも法に基づく政治を重視し、



図3 『社会科 中学生の歴史』 p.17 「⑤紀元前後の東アジア」

また役人を通じて皇帝の命令が全国に行きわたる仕組みを整えたことを捉えさせる。このことが、律令に基づく政治や天皇を中心とした中央集権国家をつくったという理解につながっていく。

また、教科書p.17の漢が周辺諸国の王に与えた印（図3）を示し、漢に周辺諸国が中国皇帝の家臣の立場となって国交を結ぶ（＝朝貢）という東アジアの国際秩序が成立したことを捉えさせる。このことが、日本もその秩序の中に組み込まれており、後に同様の関係性から漢委奴国王の印や勘合貿易という仕組みがあったことを捉えさせることにつながっていく。

（4）第4時

本時は、ギリシャを例に民主政治の来歴を捉えさせたい。歴史的分野改訂のポイントとして、「主権者の育成という観点から、民主政治の来歴や人権思想の広がりなどについての学習の充実」（解説）が挙げられており、日本の民主政治を理解させるためにも重要である。

まず、ギリシャの文明について学習することを伝えた上で、既習事項である世界の文明は大河の流域に発生し、さらに強大な国家が成立したことを確認する。次に地図帳をもとに、ギリシャ文明も同様な地形に文明が発生したのか調べさせ、そうではないことに気付かせていく。加えて、広範囲に支配するのではなく、都市国家であり、また民主政がとられていたことを捉えさせる。そこで、「**他の文明では王による支配だったのに、なぜギリシャやローマではみんな政治をする仕組みができたのだろう。**」と問う。まず、重装歩兵部隊の資料（図4）を示し、成年男子の市民が

ポリスを守るための戦闘の義務を負ったことを捉えさせる。その上で、成人男子の市民が自国を防衛したことから参政権が与えられ、民主政治の仕組みが成立したこと

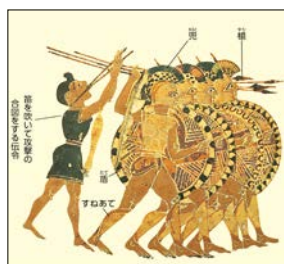


図4 『最新世界史図説 タペストーリー』（18訂版）p.64 「①戦う重装歩兵」

を捉えさせる。ただ、女性に参政権がないことや、当時の社会は多数の奴隷によって支えられていた社会でもあることから、現在の民主政治とは似て非なるものであることも押さえておく。このことが、市民革命を経て、日本において立憲制国家が成立したり、大正デモクラシー期に民主主義思想が広まっていったりしたことの理解につながっていく。

5 おわりに

社会科の授業、とりわけ歴史的分野の授業実践においては、内容の精選を意識して取り組んでいる。なぜなら、すべてを網羅しようとする内容過多となり、生徒に歴史の授業は覚えるものであるという誤った認識を持たせてしまうからである。今回は、「世界の歴史を通して、歴史的な見方や考え方を捉えさせる」というねらいから、内容の精選を行い、**その後に学ぶ学習内容とどのようにつながるのか、明らかにした点で意義がある**と考える。ただ、今回の授業展開をより意義あるものにするには、既習事項として、日本の歴史を学ぶ際に振り返ること、すなわち、学習内容の往復を計画的に図り、生徒の学びを深めていくことが重要である。今後も、そのような点を意識しながら授業実践に取り組んでいきたい。

<参考文献>

- ・森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書（1978年）
- ・森分孝治 片上宗二 編『社会科 重要用語300の基礎知識』明治図書（2000年）
- ・桑原敏典『中学校新教育課程 社会科の指導計画作成と授業づくり』明治図書（2009年）
- ・梅津正美「歴史的分野における主権者教育の視点から考える世界の歴史の授業」『中学校社会科のしおり』2学期号 帝国書院（2017年）
- ・清水建二『新編集 語源とイラストで一気に覚える英単語』成美堂出版（2015年）